

高知人文社会科学会設立趣意書

高知大学人文学部・人文社会科学部門においては、これまで研究・教育に関わる優れた実践的成果が数多く生み出され、それらをもとに人文社会科学独自の地域貢献が行われてきた。成果の中には、研究班を編成して新たな融合の形をとり、更なる貢献に結実したものもある。ただし、地域の課題はなお複雑に絡まり合って存在しているのに対し、私たちの活動は依然として多くが個別的範囲にとどまっている。

現在の日本は、少子高齢化や経済格差・貧困、そして東日本大震災、さらには原子力災害からの復旧・復興等々の深刻な問題を抱えるとともに、経済のグローバル化や行財政改革の影響により、地域社会の持続可能性が一層危ぶまれる状況にある。これらの点に関して、私たちの地域、高知県に目を向ければ、上記状況の「最先端」に位置するともいわれている。すなわち、どの課題一つをとってみても、社会、経済、政治はいうまでもなく文化的・歴史的視野に立って、また個人のアイデンティティのありかたにも関わって、広く解決の糸口を見いださなければならない状況がそこにはある。

まさに、「大学の枠を越えた多様な人びととの双方向のコミュニケーションの場」を形成し、「大学と地域との橋渡しを通じて、地域の発展に寄与すること」を、高知の人文社会科学の新たなステージにおいて具体化せねばならない時が来ていると考える。

もとより、高知県立大学、高知工科大学をはじめとする県内の他の高等教育機関等において人文社会科学をになう方々が同様の問題意識を有し、地域に貢献しておられることは承知しているところである。このこともまた私たちの大きな励みとなっている。

研究者、学生、実務家が分野、所属等の垣根を越えて集う場を提供していくことは、今後の高知における人文社会科学研究を進めていく上で重要な意義がある。研究・教育の成果発表等を通じて、互いの活動を知り、異なる視点から自由に議論することは、必ずや研究・教育を活性化し、新たな共同研究や地域連携の萌芽ともなることを確信する。

ここに、高知における人文社会科学分野の研究と知識の普及に対する貢献を期して、高知人文社会科学会を創設する。

2013 年 1 月 23 日

高知人文社会科学会設立準備委員会一同